

御国の福音

第 12 回：70 週の預言と御国の計画（前編）

はじめに

A. 前回ダニエル書から学んだことの要約

1. バビロン捕囚以降、4 つの異邦人王国が世界の覇権を握る。
2. 最後の異邦人王国（反キリストの王国）による支配の期間は、イスラエルにとって苦難の期間となる。特に、最後の 3 年半において苦難が激しくなる。
3. 3 年半の終わりにメシアが地上に来られ、反キリストとその王国を滅ぼされる。そして、イスラエルが回復され、地上に御国が成就する。

B. ダニエル書 9 章の文脈

1. エレミヤの預言：バビロン捕囚は 70 年で終わる

エレミヤ書 29:10-14（※25:11-12 にも同様な預言あり）

¹⁰ まことに、主はこう言われる。「バビロンに七十年が満ちるころ、わたしはあなたがたを顧み、あなたがたにいつくしみの約束を果たして、あなたがたをこの場所に帰らせる。¹¹ わたし自身、あなたがたのために立てている計画をよく知っている——主のことば——。それはわざわざではなく平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。¹² あなたがたがわたしに呼びかけ、来て、わたしに祈るなら、わたしはあなたがたに耳を傾ける。¹³ あなたがたがわたしを捜し求めるとき、心を尽くしてわたしを求めらば、わたしを見つかる。¹⁴ わたしはあなたがたに見出される——主のことば——。わたしは、あなたがたを元どおりにする。あなたがたを追い散らした先のあらゆる国々とあらゆる場所から、あなたがたを集める——主のことば——。わたしはあなたがたを、引いて行った先から元の場所へ帰らせる。」

- a) バビロン捕囚は 70 年で終わる。
- b) イスラエルの帰還が実現する。
- c) その時、民は心を尽くして神を求め、神を見出す。

2. ダニエルの祈り

- (1) 時は「メディア族のクセルクセスの子ダレイオスが、カルデア人の国の王となったその元年」。キュロス王¹ がバビロンを陥落させ、第2の異邦人王国ペルシャが覇権国となった年（紀元前538/539年）である。
- (2) ダニエルは、バビロンが滅びたこと、また捕囚から70年経ったことから、エレミヤの預言が成就し始めたことを悟った。
- (3) ダニエルは、今こそ御国の計画が成就する時だという思いをもって、祈り始めた。
 - a) 自分の罪のため
 - b) 民族的罪のため
 - c) エルサレムの回復のため

3. 天使ガブリエルの介入

(1) 9:20-23

²⁰私がまだ語り、祈り、自分の罪と自分の民イスラエルの罪を告白し、私の神の聖なる山のために、私の神、主の前に伏して願いをささげていたとき、²¹すなわち、私がまだ祈りの中で語っていたとき、私が初めに幻の中で見たあの人ガブリエルが、すばやく飛んで来て私に近づいた。それは夕方のささげ物を献げるころであった。²²彼は私に悟らせようとしてこう告げた。「ダニエルよ。私は今、悟りによってあなたを賢明にさせようとして出て来た。²³あなたが願いの祈りを始めたとき、一つのみことばが出されたので、私はそれを伝えに来た。あなたが特別に愛されている者だからだ。そのみことばを聞き分けて、その幻を理解せよ。

- (2) 御国の成就を願うダニエルに、天使を通して新しい情報（啓示）がもたらされた。
- (3) ダニエルは、神から「特別に愛されている者」であった。
 - a) 神はこれまでダニエルに、多くの預言と幻をお与えになった。
 - b) 神は、御国の計画についてさらなる情報をダニエルにお与えになる。
- (4) 神がダニエルにお与えになった新しい啓示が、「70週の預言」である。

C. 「70 週の預言」についてよく言われているポイント

1. 70 週の意味
 - (1) 1 日 = 1 年。よって、1 週 = 7 年。
 - (2) 70 週は、 $70 \times 7 = 490$ 年。
2. イスラエルが回復させられるまでには、さらに 490 年を要する。
3. 「エルサレムを復興し、再建せよ」という命令から、メシアが来られるまでが 69 週
($69 \times 7 = 483$ 年)
4. 69 週の後、第 70 週目が始まるまでの間にはインターバルがある。
 - (1) 69 週の後、メシアが死ぬ。
 - (2) このインターバルは、教会時代のことである。
5. 反キリストがイスラエルと 7 年間の契約を結ぶ時、第 70 週目が始まる。
 - (1) 最後の 70 週 = 7 年間は、将来の患難時代の期間である。
 - (2) 反キリストは後半の 3 年半で契約を破り、イスラエルを迫害する。
 - (3) 7 年が終わると、キリストが地上に再臨され、反キリストは滅ぼされる。

D. 講義のアウトライン

1. 「週」の意味 (9:24a)
2. 70 週の 6 つの目的 (9:24b)
3. 最初の 69 週間 (9:25)
4. インターバル (9:26)
5. 第 70 週目 (9:27)

本講義は、旧約聖書における御国の計画の総まとめとして、70 週の預言を学ぶものである。

I. 「週」の意味（9:24a）

9:24a「あなたの民とあなたの聖なる都について、七十週が定められている。」

1. 「70 週」という翻訳について

- (1) 「週」と訳されているヘブル語は「シャブイーム」である。これは、「7」を意味する「シャブアー」の複数形である。
- (2) 「70 週」は、直訳すると「70 の 7」（seventy sevens）である。

2. 1 週（1 seven）の意味²

- (1) 「シャブアー」は単純に「7」を意味する。「7 つの日」（7 days）と捉えれば、「週」と訳することができる。
- (2) しかし、「7 つの年」（7 years）とも、また他の形でも解釈することができる。
- (3) 土台となっているのはエレミヤの 70 年の預言であり、ダニエルの関心は「年」にある。よって、ここでの「シャブアー」は「7 つの年」と捉える方が自然。
- (4) モーセの律法では、安息年の規定が定められていた（レビ 25:4、8）。ユダヤ人にとっては、7 年で 1 セットという概念は親しみのあるものであった³。

II. 70 週の 6 つの目的（9:24b）

9:24b「それは、背きをやめさせ、罪を終わらせ、咎の宥めを行い、永遠の義をもたらし、幻と預言を確証し、至聖所に油注ぎを行うためである。」

1. 6 つの目的は、「あなたの民とあなたの聖なる都」についてのものである（24 節 a）。

- (1) 背きをやめさせる
- (2) 罪を終わらせる
- (3) 咎の宥めを行う
- (4) 永遠の義をもたらす
- (5) 幻と預言を確証する
- (6) 至聖所に油注ぎを行う

2. 6 つの目的に見られる主要な要素
 - (1) 贖いと罪の赦し：イスラエルの霊的回復
 - (2) 永遠の義の確立：メシアによる王国の成就
 - (3) 至聖所の油注ぎ：神殿の回復
3. 6 つの目的は、いずれもダビデの子であるメシア的王が来られ、イスラエルを回復させられる時に成就するものである。
4. 70 週は、御国の計画が成就するまでの期間である。

III. 最初の 69 週間（9:25）

9:25「それゆえ、知れ。悟れ。エルサレムを復興し、再建せよとの命令が出てから、油注がれた者、君主が来るまでが七週。そして苦しみの期間である六十二週の間に、広場と堀が造り直される。」

A. 翻訳の問題

1. 訳文の比較
 - (1) 新改訳 2017 では「油注がれた者、君主が来るまで」が 7 週、そして「広場と堀が造り直される」のが 62 週の間である。
 - (2) 口語訳では、「メシヤなるひとりの君が来るまで」が $7 + 62 = 69$ 週である。
それゆえ、エルサレムを建て直せという命令が出てから、メシヤなるひとりの君が来るまで、七週と六十二週あることを知り、かつ悟りなさい。その間に、しかも不安な時代に、エルサレムは広場と街路とをもって、建て直されるでしょう。
2. 翻訳の違いについて
 - (1) 一般的に、ヘブル語聖書の原本として用いられるのは「マソラ本文」といわれる中世期の写本である。
 - (2) マソラ本文には、読み方を規定するアクセント符号が付加されている。これに従うと、9:25 は新改訳 2017 のような読み方となる。

- (3) マソラ本文よりも古い古代ギリシャ語訳や、ヒエロニムスのラテン語訳（ヴルガタ訳）などでは、口語訳の読み方に近い。

3. どう考えたらよいか？

(1) マソラ本文について

- a) マソラ本文のアクセント記号は、後代の人々が付加したものであり、靈感を受けたものとは言い難い。
- b) マソラ本文は非常に有益である。しかし、中世期のユダヤ教の読み方を反映したものであり、箇所によっては反キリスト教的な読み方に変えられていたとしてもおかしくはない。
- c) 70 週の預言は、古代のクリスチャンによってもイエス・キリストを指し示す箇所として考えられていた。よって、マソラ本文では、そう読めなくするようにされていたとしてもおかしくはない。

(2) ここでは、新改訳 2017 よりも、口語訳の読み方を採用する。

- a) 70 週の預言については、ほとんどの古代の翻訳（ギリシャ語、シリア語、ラテン語）が、7 週と 62 週を 1 セットで扱っている。
- b) マソラ本文のような形で 7 週と 62 週を分けると、意味が通らない文章になってしまう。
- c) よって、ダニエル書 9:25 については、マソラ本文よりも古代ギリシャ語訳などの読み方を採用する⁴。

B. 最初の 69 週間

1. 70 週のスタートポイント：「エルサレムを建て直せという命令」

(1) 主に 3 つの説がある⁵。

- a) 紀元前 538/539 年：キュロス王の「帰還して神殿を再建せよ」という命令（エズ 1:2-4）
- b) 紀元前 458 年：アルタクセルクセス王の「神殿における適切な礼拝を行え」というエズラへの命令（エズ 7:11-26）
- c) 紀元前 444/445 年：アルタクセルクセス王の「エルサレム再建のために帰還してよい」というネヘミヤへの許可（ネヘ 2:1-8）

(2) キュロス王の帰還命令以降、エルサレムが再建されたのはネヘミヤの世代になってからである。

(3) 紀元前 458 年か 445 年が 70 週のスタートポイントであると思われる。
(おそらく、前 445 年だろう⁶。)

2. 「油注がれた者、君主」について

(1) キリスト教では伝統的に、25 節の「油注がれた者、君主」はイエス・キリストのことだと解釈されてきた。

(2) 「油注がれた者、君主」はヘブル語で「マシアハ、ナギード」である。

a) 「マシアハ」は、「油注がれた」という意味の形容詞である。

b) 「ナギード」は第一義的には「支配者」という意味である。

(3) 「マシアハ」は、メシアという存在あるいは称号を指す専門用語でもある。

a) 「メシア」の定義：神の民と世界に救いをもたらすため、また平和と正義の王国をお建てになるために神がお送りになる、将来の王⁷。

b) 古代ユダヤ教のラビたちの中には、この「マシアハ、ナギード」をメシアと解釈していた例がある（タルムード、メギラー3a など）⁸。

c) 70 週の目的（罪の贖い、永遠の義の確立など）は、これまでイザヤ書などの預言では、ダビデの子であるメシア的王によって実現する。

d) 聖書預言の文脈から考えれば、ここでの「マシアハ」はメシア的王（つまりイエス）を指すと捉えるのが自然である⁹。

3. 最初の 69 週間に起こること

(1) 最初の 69 週間（483 年間）は、ユダヤ人にとって苦しみの期間でもある。
例：アンティオコス 4 世エピファネスによる迫害、ローマ帝国の支配など。

(2) 最初の 7 週（49 年）の間に、エルサレムが再建される。

(3) それから 62 週（434 年）経って、メシアが現れる。

¹ ダニエル書では、「メディア族……ダレイオス」は、おそらくキュロス王の別名であると考えられている。J. M. Bulman, "The Identification of Darius the Mede," *Westminster Theological Journal* 35 (1973): 247–67; Stephen R. Miller, *Daniel*, New American Commentary (Nashville, TN: B&H, 1994), 171–76.

² 包括的な議論については、Miller, 252–57 を参照のこと。

³ Leon Wood, *A Commentary on Daniel* (Grand Rapids, MI: Zondervan, 1973), 247.

⁴ 詳しい議論は以下を参照のこと。Randall Price, "Prophetic Postponement in Daniel 9:24–27," in *Progressive Dispensationalism: An Analysis of the Movement and Defense of Traditional Dispensationalism*, ed. Ron J. Bigalke, Jr. (Lanham, MD: University Press of America, 2005), 232–33.

⁵ Miller, 262–64; Paul D. Feinberg, "An Exegetical and Theological Study of Daniel 9:24–27," in *Tradition and Testament: Essays in Honor of Charles Lee Feinberg*, eds. John S. and Paul D. Feinberg (Chicago: Moody, 1981), 191–95; Gleason L. Archer, Jr., "Daniel," in *The Expositor's Bible Commentary*, vol. 7, ed. Frank E. Gaebelein (Grand Rapids, MI: Zondervan, 1985), 113–16.

⁶ Arnold Fruchtenbaum, "The Messianic Time Table According to Daniel the Prophet," <<https://jews-forjesus.org/issues-v05-n01/the-messianic-time-table-according-to-daniel-the-prophet>>; accessed Dec 9, 2018.

⁷ W. H. Rose, "Messiah," in *Dictionary of the Old Testament: Pentateuch*, eds. T. Desmond Alexander and David W. Baker (Downers Grove, IL: InterVarsity, 2003), 566.

⁸ Michael Rydelnik, "Daniel," in *The Moody Bible Commentary*, eds. Michael Rydelnik and Michael Vanlaningham (Chicago: Moody, 2014), 1305.

⁹ Feinberg, 201; Miller, 264.